

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
143

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 286集】 photo ヴァージョン

photopos 3551-3575

《2024.5.29～ 2024.6.22》

神秘学遊戯団

知を求めているのか
愛を求めているのか

美を求めているのか
善を求めているのか

真理を求めているのか
正義を求めているのか

強さを求めているのか
やさしさを求めているのか

楽しさを求めているのか
安らぎを求めているのか

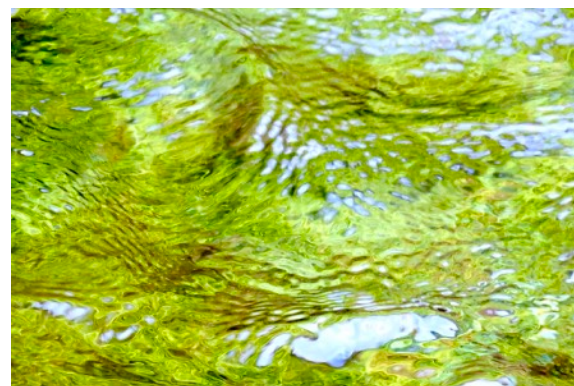
だれもがなにかを
求め求め求めている

求めては
信じ
求めては
信じ
求めては
信じ

手当たりしだいに求める
その繰り返しのなかで
なにを求めているのかさえ
わからなくなりはしないか

なにも信じられないと
また別のものを求めさえして…

やがて
その果てのない無限が
いまここという
永遠とともにあることに
気づくことができますように



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

ハエに
ハエとり壺からの
出口を示すことが
哲学ならば

ひとを
閉じこめる論理からの
出口を示すこともできるだろう

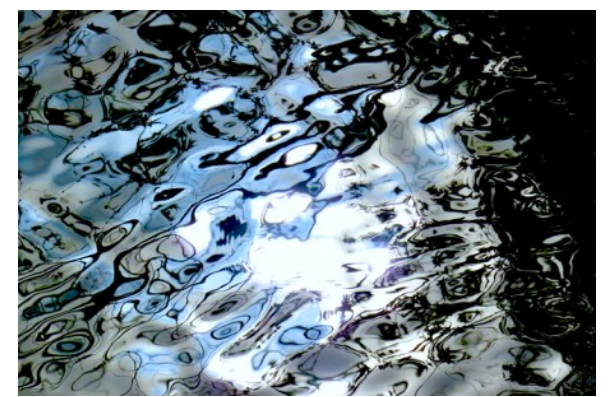
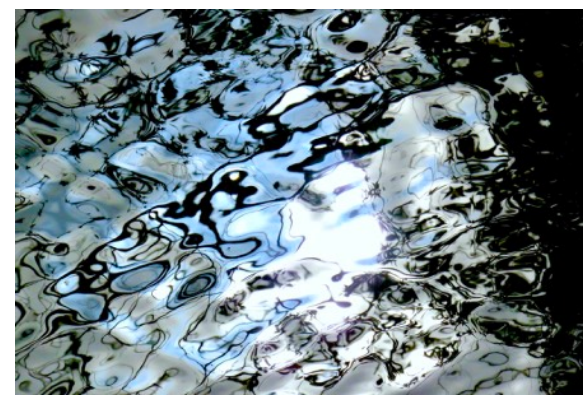
初期条件と論理展開が
すでに決まっているなら
そこに自由はないが
論理にはその外がある

わたしは変わり
世界は変わり
その先は見えない

見えていないのか
決まっていないのか

決まっているならば
いまのわたしに外はなく
いまの世界に外はないが

たとえそれが
語り得ない外だとしても
このわたしは
この世界の外の無常を
遊ぶこともできるだろう



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

豊かに生きるには
こころの器を
あふれる感情で
満たすことだ

器は大きいほどいい

小さな器には
ちっぽけな感情しか
容れることができないから

いらぬ感情などない

どんな悪しき感情も
醜い感情さえも
こころの器に容れるのだ

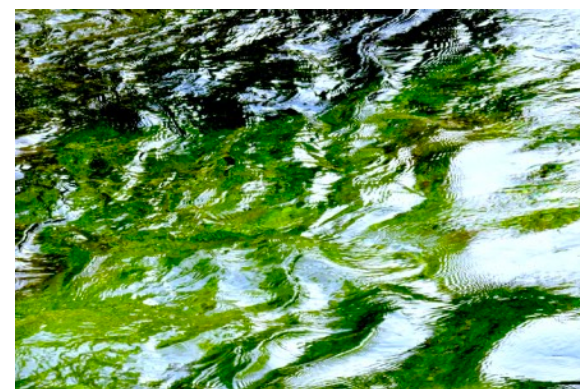
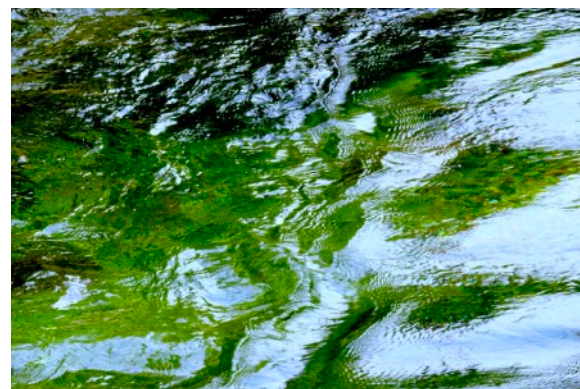
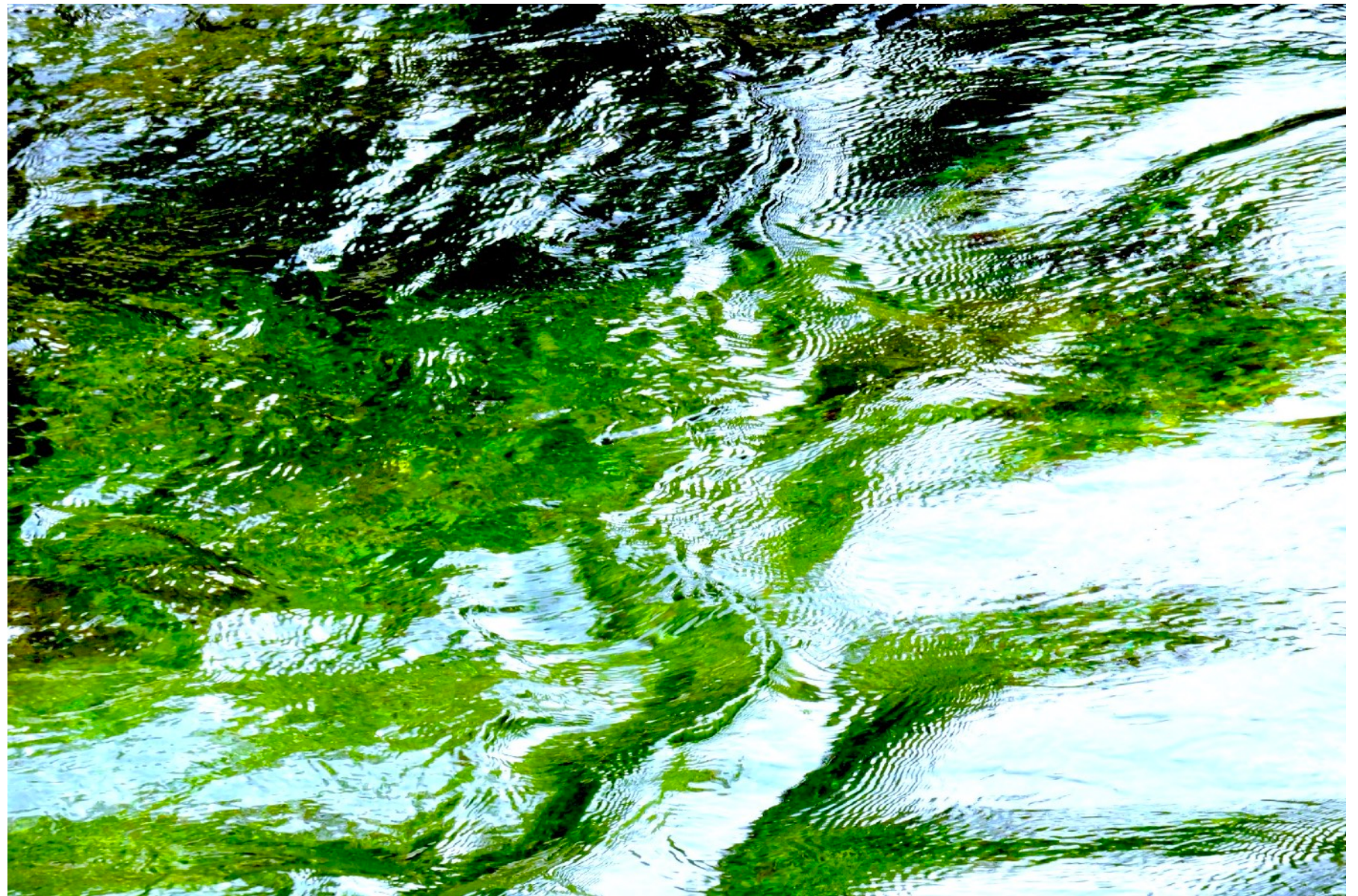
そして
数えきれないほどの
器に容れられた感情を
ひとつひとつ
たしかめ
味わってゆく

どの感情も孤立してはいない

あらゆる感情は
ほかのあらゆる感情と響きあい
器のなかで熟し
器もまたその形を変えてゆく

豊かに生きるとは
こころの器を豊かにすることだ

あらゆる感情は
その器のなかで
妙なる花へと変容してゆくから



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

わたしがわたしである偶然
あなたがあなたである偶然
わたしとあなたが出会う偶然

それはすでに
偶然といえるだろうか

偶然という謎の前で佇むわたしがいる

自由を求める者の自由
自由をもてあます者の自由
ふたつの自由がすれちがう自由

互いの自由を自由だとは
思わないだろうか

自由という謎の前で佇むわたしがいる

現実とされるものに否応なく従う者
みずからすすんで従う者
現実を問い直す者

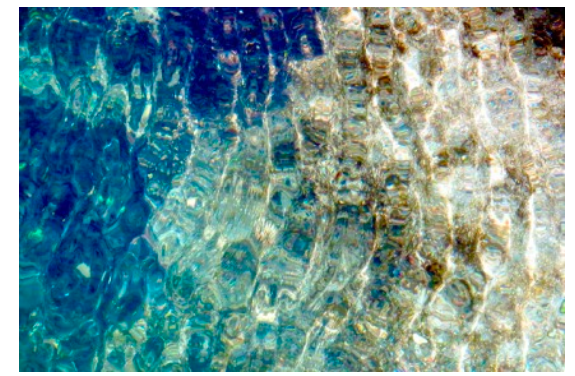
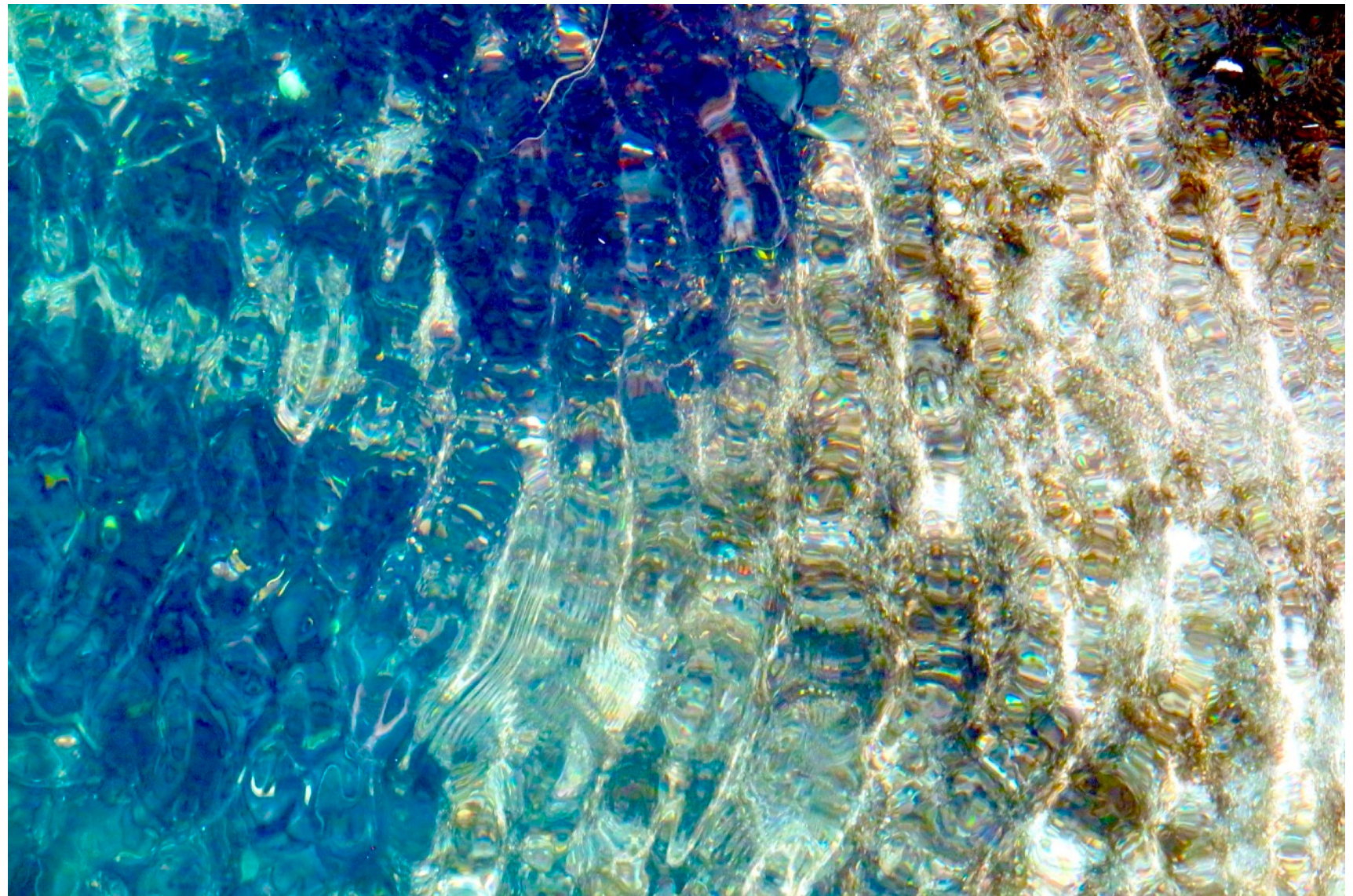
不幸なのだろうか
不幸でさえないのだろうか
不幸を超えようとするのだろうか

現実という謎の前で佇むわたしがいる

愛することなく愛される者
愛されることなく愛する者
愛することを愛する者

愛されることが幸福だろうか
愛することが幸福だろうか

愛という謎の前で佇むわたしがいる



*愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

なにを
つくりたいのか
なにを
つくりたくないのかさえ
わからなくなったとき

手はどこにいればいいのか

NOWHERE-HANDS

なにを
書きたいのか
なにを
書きたくないのかさえ
わからなくなったとき

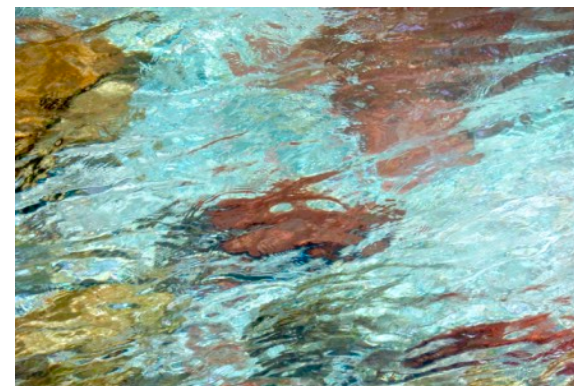
言葉はどこへ向かえばいいのか

NOWHERE-WORDS

なにが
好きなのか
なにが
嫌いなのかさえ
わからなくなったとき

心はどこで過ごせばいいのか

NOWHERE-MINDS



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

時間の
根底には
矛盾がある

けれど
矛盾ゆえにこそ
変化はそこにあらわれる

たとえそれが
幻であったとしても
時間は無常の花となる

世界の
根底には
矛盾がある

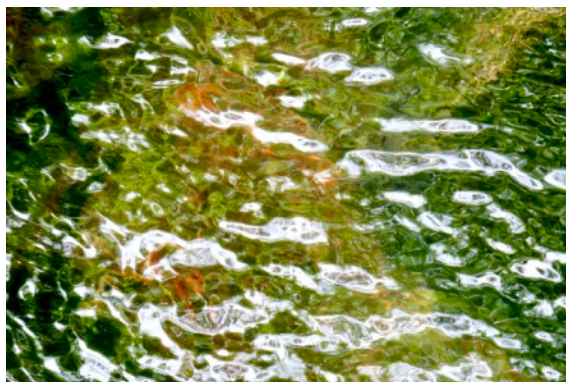
けれど
矛盾ゆえにこそ
舞台はそこにあらわれる

たとえそれが
幻であったとしても
世界は存在の花となる

私の
根底には
矛盾がある

けれど
矛盾ゆえにこそ
あなたはそこにあらわれる

たとえそれが
幻であったとしても
私は愛する花となる



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

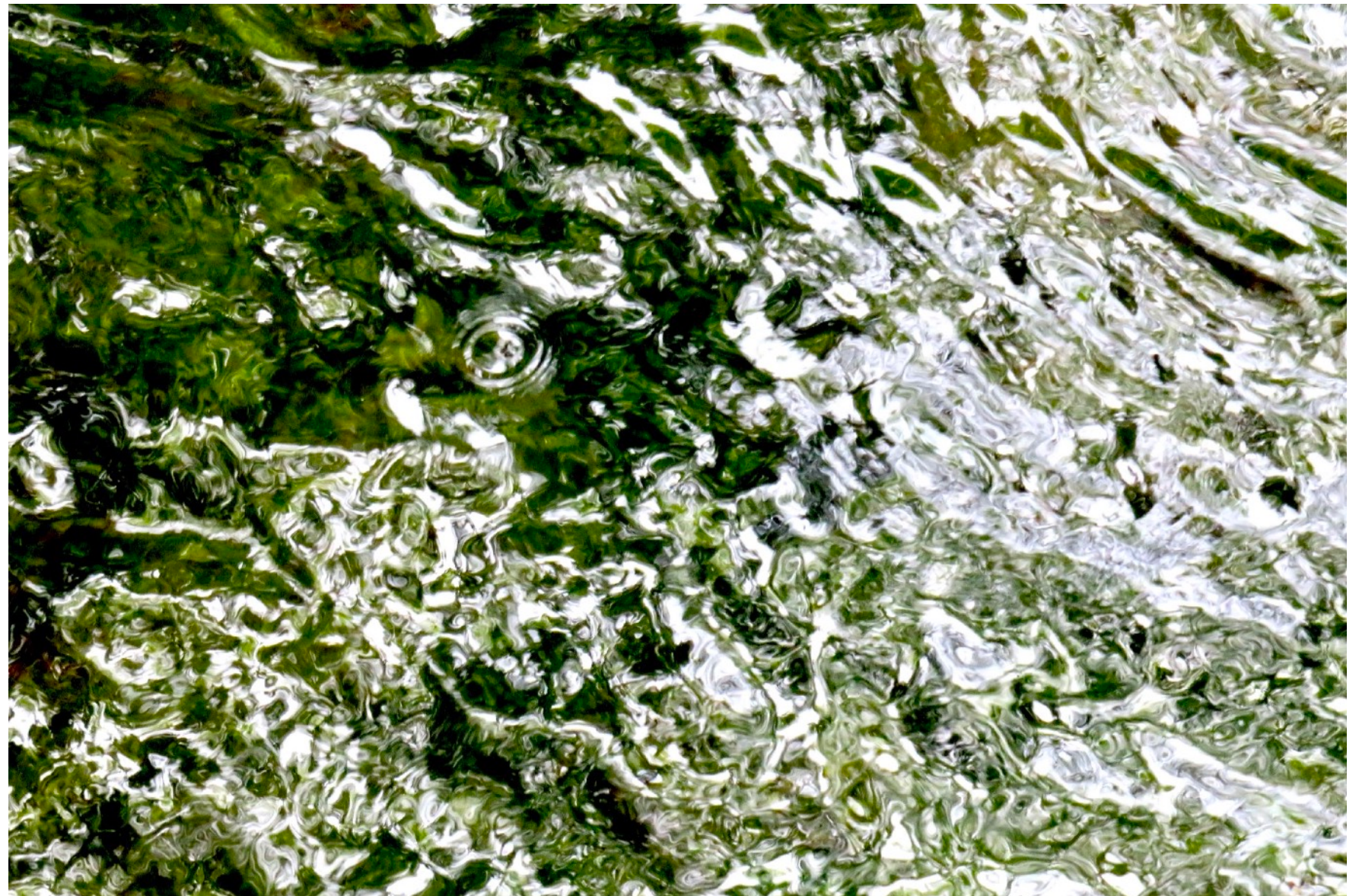
学ぶことで
いちばんむずかしいのは
学んだことを忘れることだ

教えられたことは
じぶんの学びではない
忘れることではじめて
じぶんの学びははじまる

世に満ちている
与えられた知の牢獄から
自由を求めるならば

だれもがみな
自明のごとく信じていることを
忘れた去ったところから
ひとつひとつ学びなおすことだ

自己を自己とするためには
自己を忘れなければならないように



自由のために
風になる

風とともに
吹かれてゆく

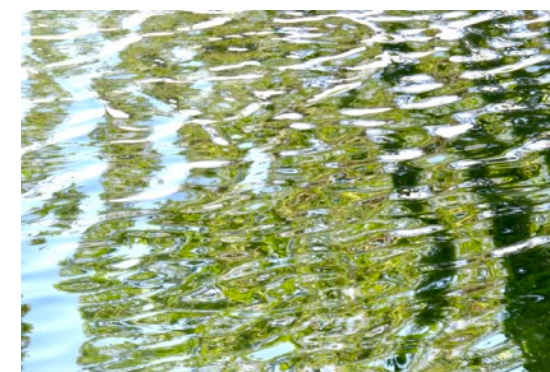
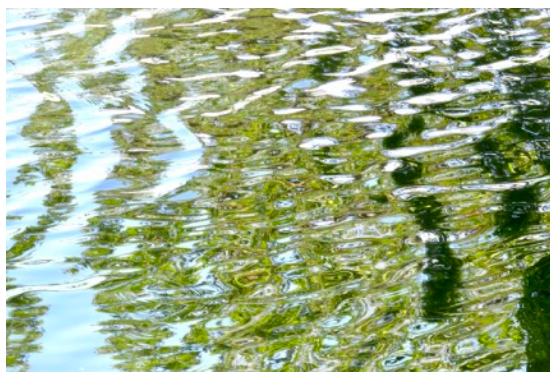
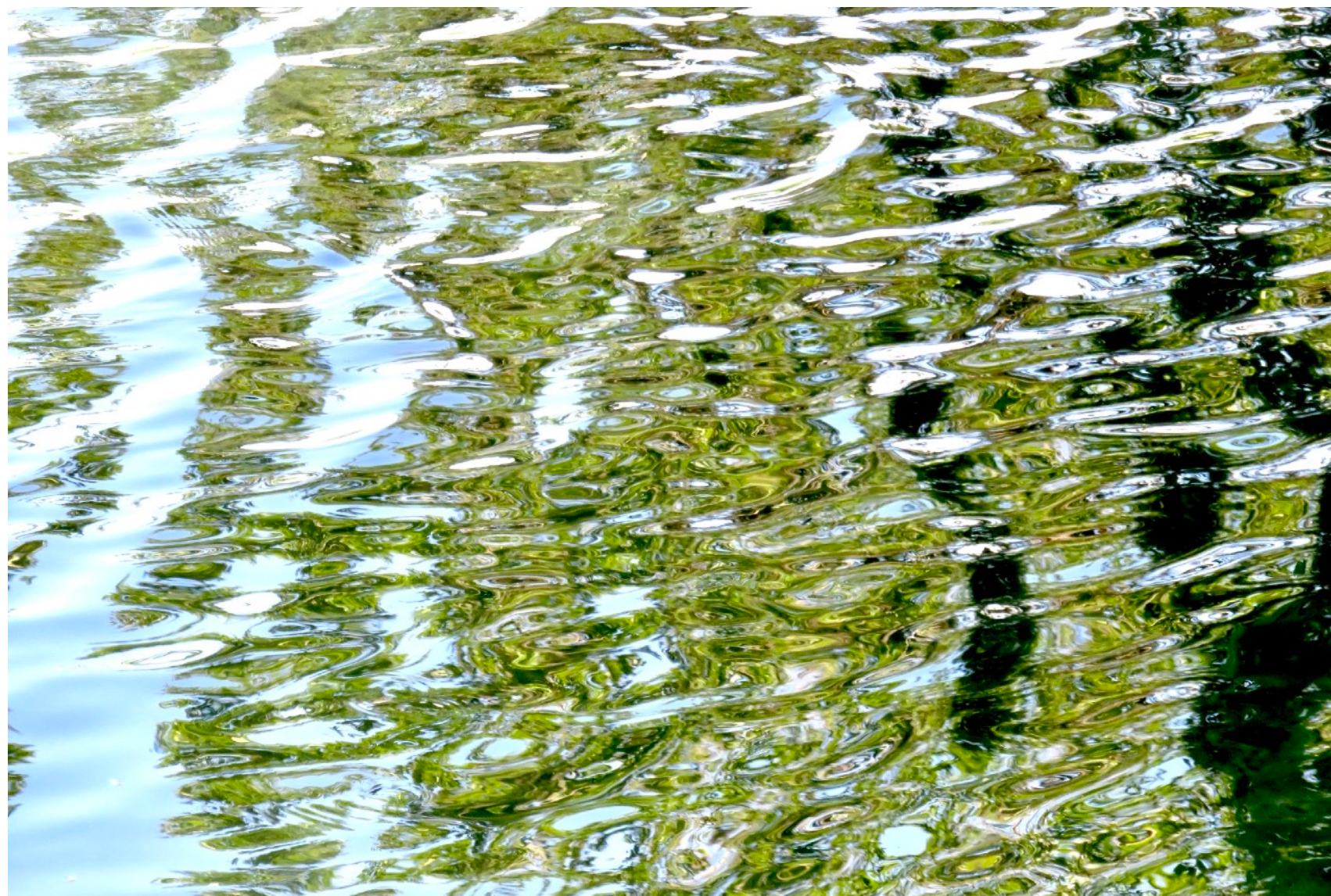
与えられた答えのことなど
風は気にしない

ただ風とともに
自由になる

自由のために
囚われた
この私を解き放つ

この私を解き放ち
私そのものになる

そして
風とともに
身を任せ
ただ吹かれてゆく



わたしは
〈今ここ〉にいる

すべての〈今ここ〉は
荘厳されている

わたしとは
すべての
生きられた時の曼荼羅

時に光の如く
時に闇の如く

すべての〈今ここ〉が
紡がれつづけながら
互いを照らし合い
わたしという謎を
あらゆる姿で現象させている

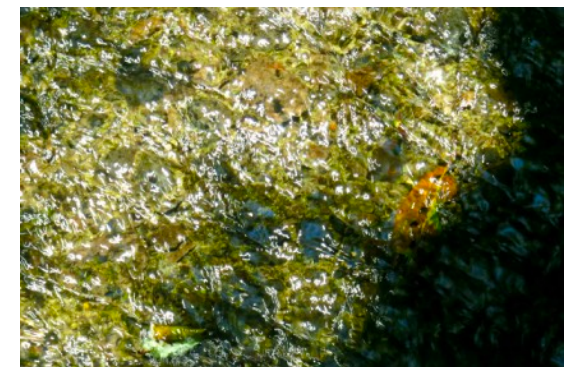
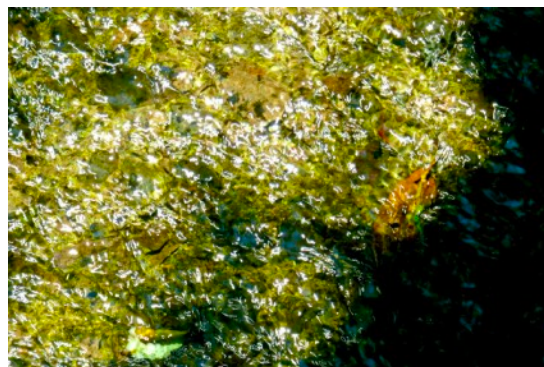
宇宙は
〈今ここ〉にある

すべての〈今ここ〉は
荘厳されている

宇宙とは
森羅万象すべての
生きられた時の曼荼羅

時に光の如く
時に闇の如く

すべての〈今ここ〉が
紡がれつづけながら
互いを照らし合い
宇宙という謎を
あらゆる姿で現象させている



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

生きるとは
迷宮をゆくこと

入口で生まれ
出口で死を迎える

そのあいだに
迷宮は
どこまでもつづき

怪物や魔物らと闘い
ときに英雄になったりもする

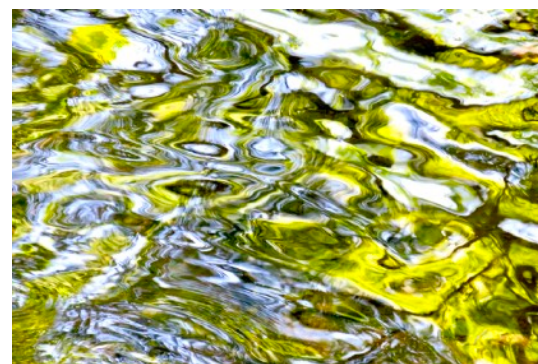
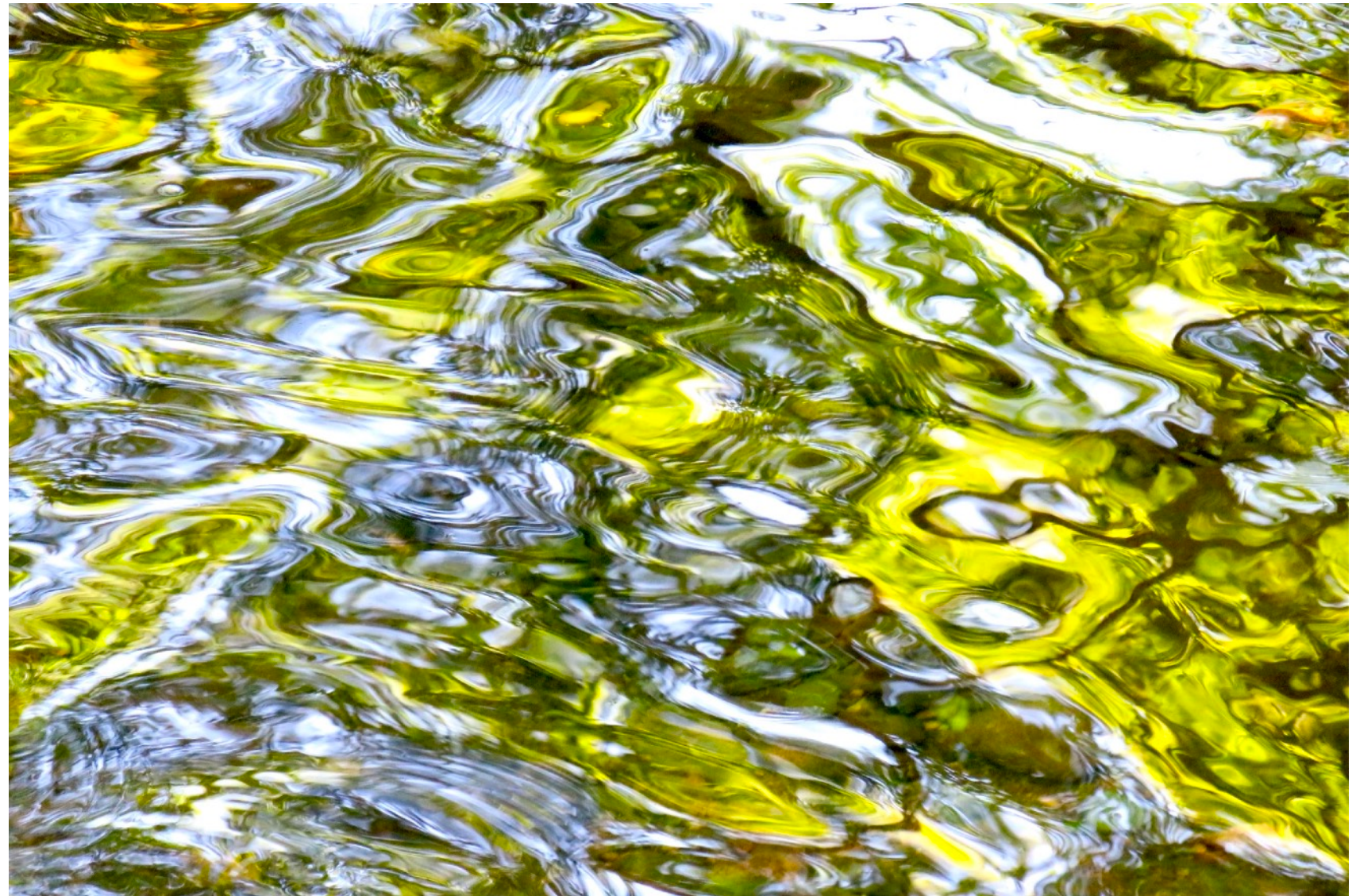
英雄になんかなれずに
散々な目にあったりもするが

入口と出口は
螺旋のようにつながりながら
じぶんだけの迷宮が
つくりあげられてゆく

そしてだれもが
入口を選んだことも
出口を選んだことも忘れ
忘れていなくても
知らないふりをして生きている

迷宮をゆくことは
答えを求めることではないからだ

迷宮をゆくためにこそ
迷宮はつづいている



規則は
規則を生み

またその規則から
新たな規則が生まれ

だれもが
規則に従うようになると

はじめの規則が
なぜ生まれたのかさえ
だれもわからなくなるが

規則に生きる者は
規則の外を恐れ
そこに結界が生まれる

そして
結界の外に生きる者を
悪と呼ぶようになる

知識は
知識を生み

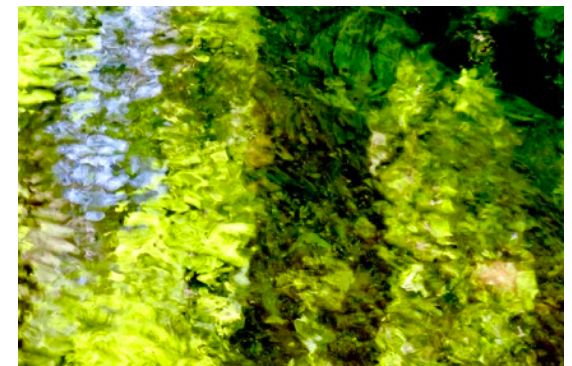
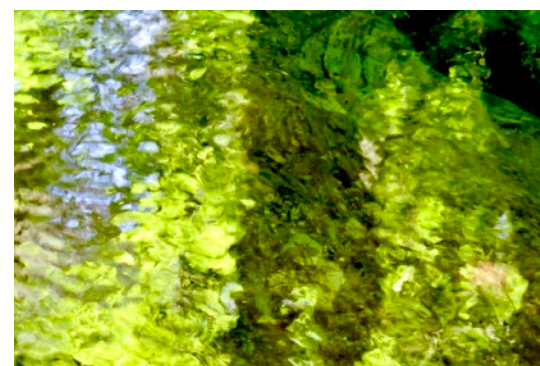
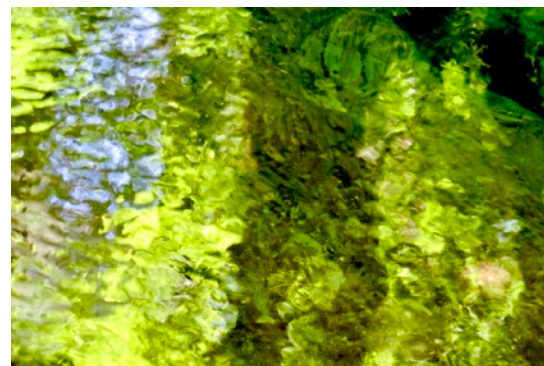
またその知識から
新たな知識が生まれ

だれもが
知識を信じるようになると

はじめの知識が
なぜ得られたのかさえ
だれもわからなくなるが

知識に生きる者は
知識を疑うことを恐れ
そこに結界が生まれる

そして
結界の外に生きる者を
異端と呼ぶようになる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

訪れるものは
帰還していくだろう

かつていたところへ
けれどかつてとは異なった姿で

そのあいだに
失うものがあり
得るものもまたあるだろう

夢見る者は
やがて目覚めるだろう

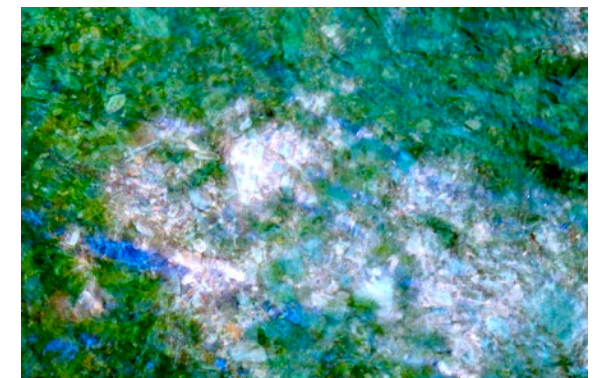
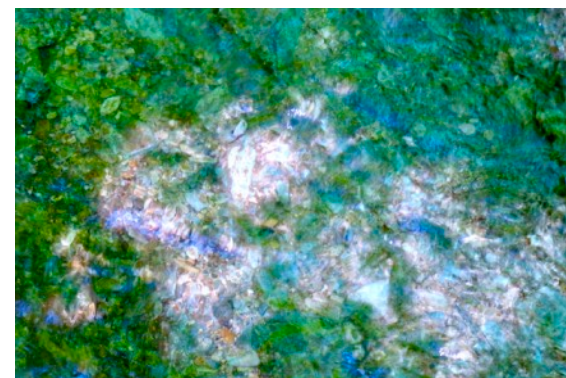
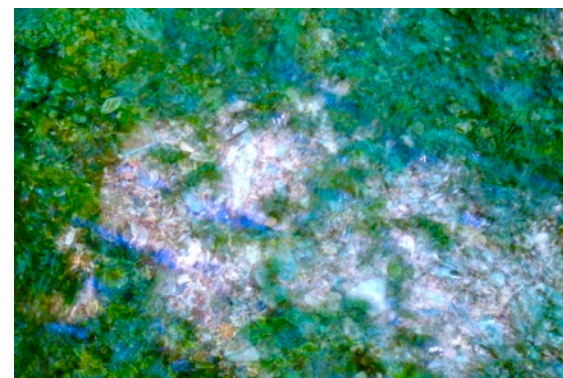
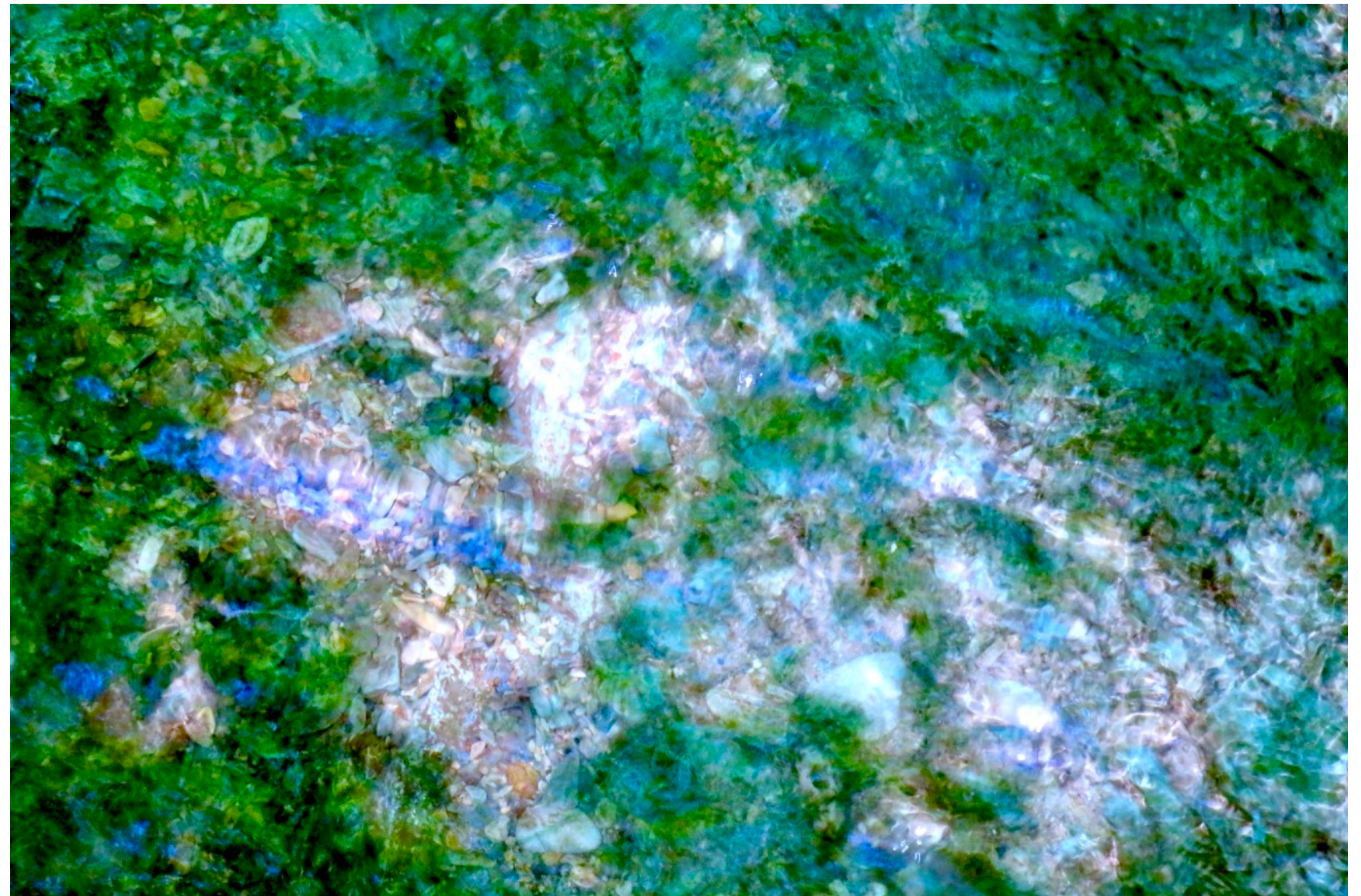
夢見るまえとは
どこか異なった世界で

その夢は
忘れられているだろうが
夢が消えさることはない

語る者は
やがて沈黙するだろう

語る言葉を見つけられずに
あるいは語る言葉を超えて

言葉からあふれだすいのちを
受けとめることのできる
そんな器が生みだされるまで



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

なぜ変わらないものが
どこにもないのか
考えてみたことがあるかい

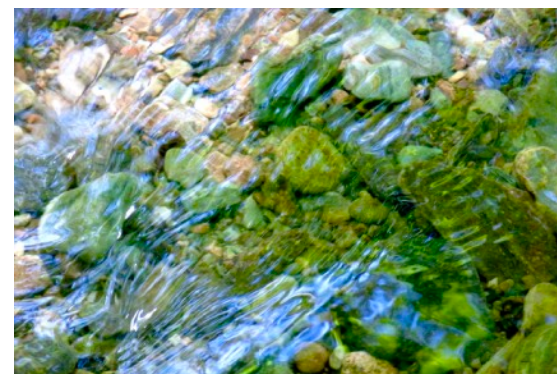
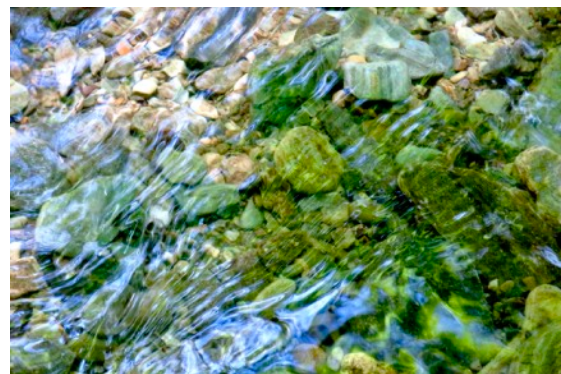
すべてが新しく
いつも生まれつづけられるようにさ
といったのは
変わり者の寝言ではなさそうだ

なぜ死なないひとが
どこにもいないのか
考えてみたことがあるかい

だれもみんな
どうしても忘れない記憶があるからさ
といったのは
忘れ上手の言い訳でもなさそうだ

なぜ天使たちが
地上にはいられないか
考えてみたことがあるかい

悪魔たちが
天界から地上に墮とされたからさ
といったのは
平和主義者の泣き言ではなさそうだ



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

秘儀の公開は
すでに自明である

秘儀はすでに
現代人にとっては
智慧を得る源とさえなりつつある

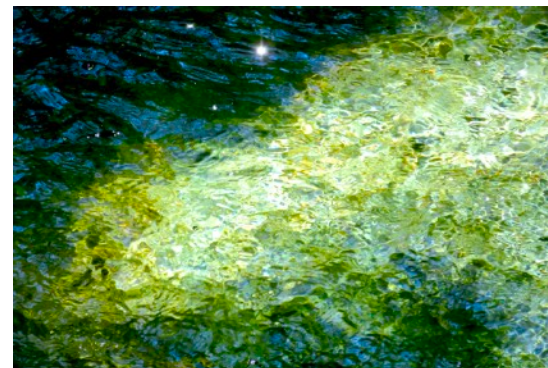
秘密を漏らす者は
死をもって
贖わなければならない
そんな時代は去った

それが残っているのは
政治と経済の世界くらいだろう
危険な人物は
それと知られず
あるいは見せしめとして
死を迎えることになるように・・・

しかしながら
自明となった秘儀の公開だが
公にされていても
それに気づく者は稀である

たとえ気づいたとしても
体得するためには
ふさわしい智慧が必要とされる

愛せよ！
と言われて
愛せる者が稀であるように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

はじめに詩があるのではない
詩として読まれる言葉が
そこにあるだけだ

詩として書かれていなくても
詩として読まれる言葉はあるけれど
詩として書かれていても
詩とは読めない言葉のいかに多いことか

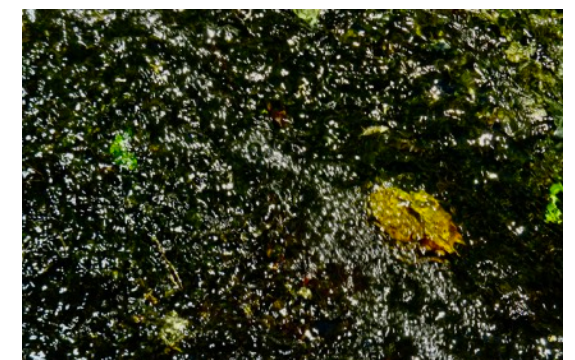
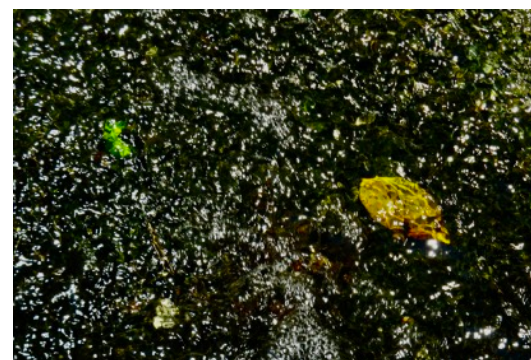
こうして詩のように
行分けで書かれていても
これは詩として書かれてはいないし
詩として読まれる必要もないように

詩人も芸術家も哲学者も
はじめから彼らが
それとして存在しているのではない

詩として読まれる言葉があり
芸術として享受される表現があり
哲学として知の愛される思考があって
はじめて詩人や芸術家や哲学者が現象する

「私」もまた
はじめから
「私」が存在しているのではない

「私」が「私」となるには
鏡としての「他者」の存在に照らされ
「私」の内に確かに
「他者」を育ててはじめて
「私」は「私がある」として現象する



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

孤島には
独自の生態系があるように
孤独にも
独自の生態系がある

孤独のなかで
独自の進化を遂げた
言葉たちがあり

言葉を溯っていくと
別の島の言葉と
どこかで繋がっていたりもするのだが

見かけは同じでも
意味は必ずしも同じではなく
それは孤独のなかでしか
得られない言葉かもしれない

けれども
孤独の深みのなかでこそ
繋がることのできる言葉が
ありはしないだろうか

言葉の姿や
仮面のような意味を超え
通底した大地の底で
あるいは気圏の対流のなかで結ばれる
秘められたエーテルの不思議のように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

生きるために

のどをうるおす水と
いのちをうるおす水と

見るために

照らされる光と
生みだされる光と

学ぶために

知るための言葉と
詠うための言葉と

作るために

かたちを習う手と
自由に遊ぶ手と

変わるために

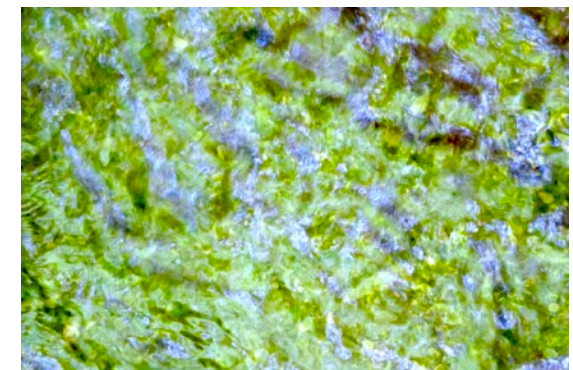
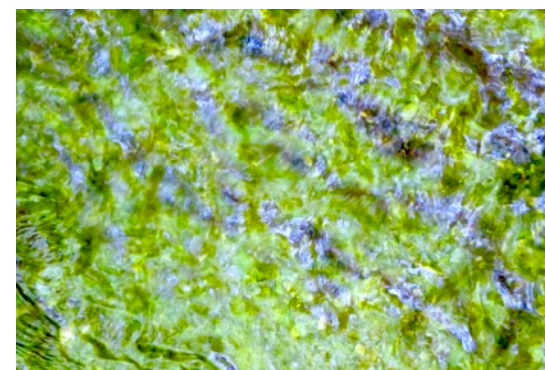
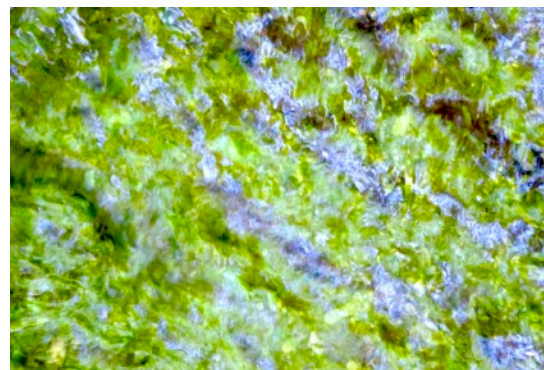
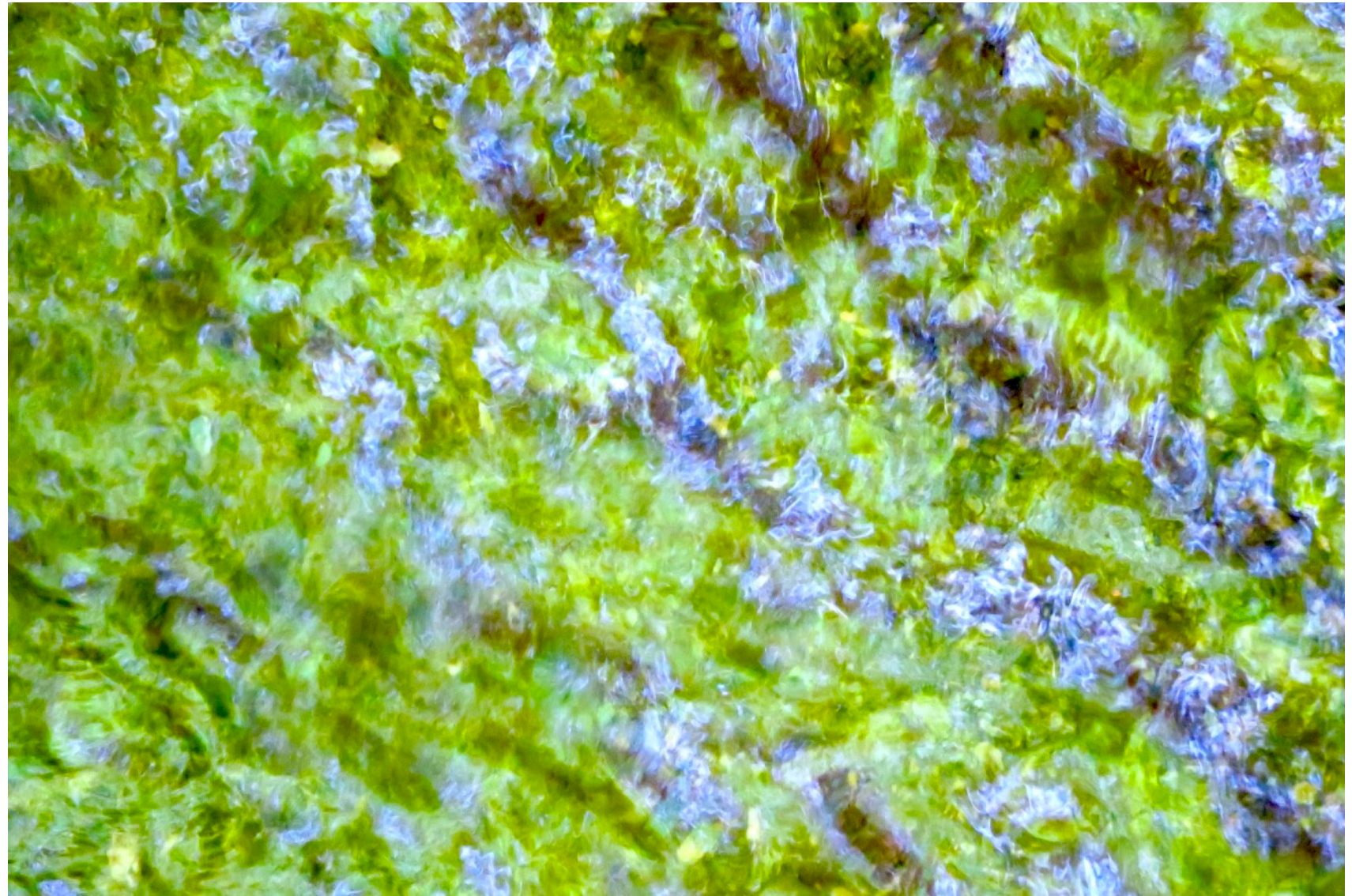
流れる時間と
生きられる時間と

愛するために

求める姿と
与える姿と

祈るために

願う心と
捧げる心と



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしは
水鏡に映る
じぶんの姿を
じぶんだと思って
生きているけれど

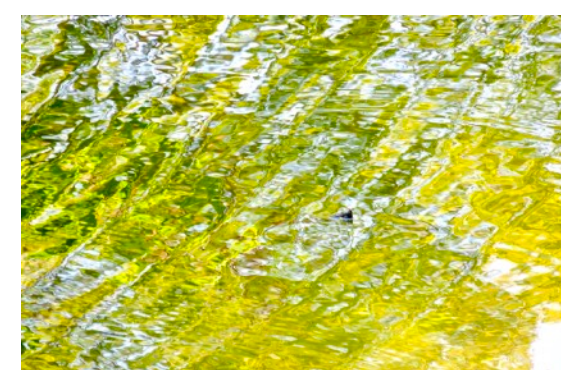
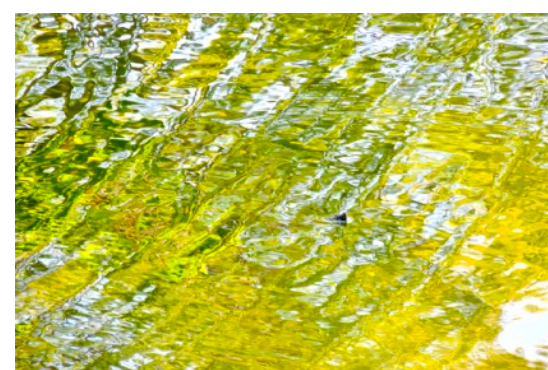
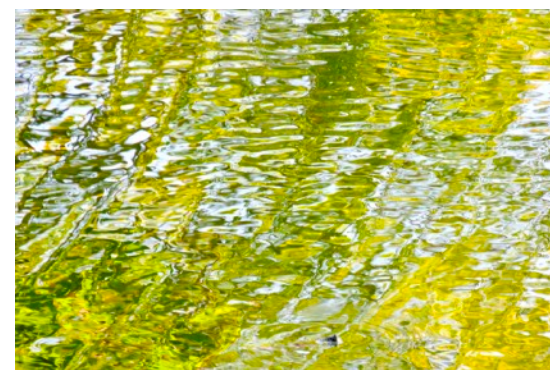
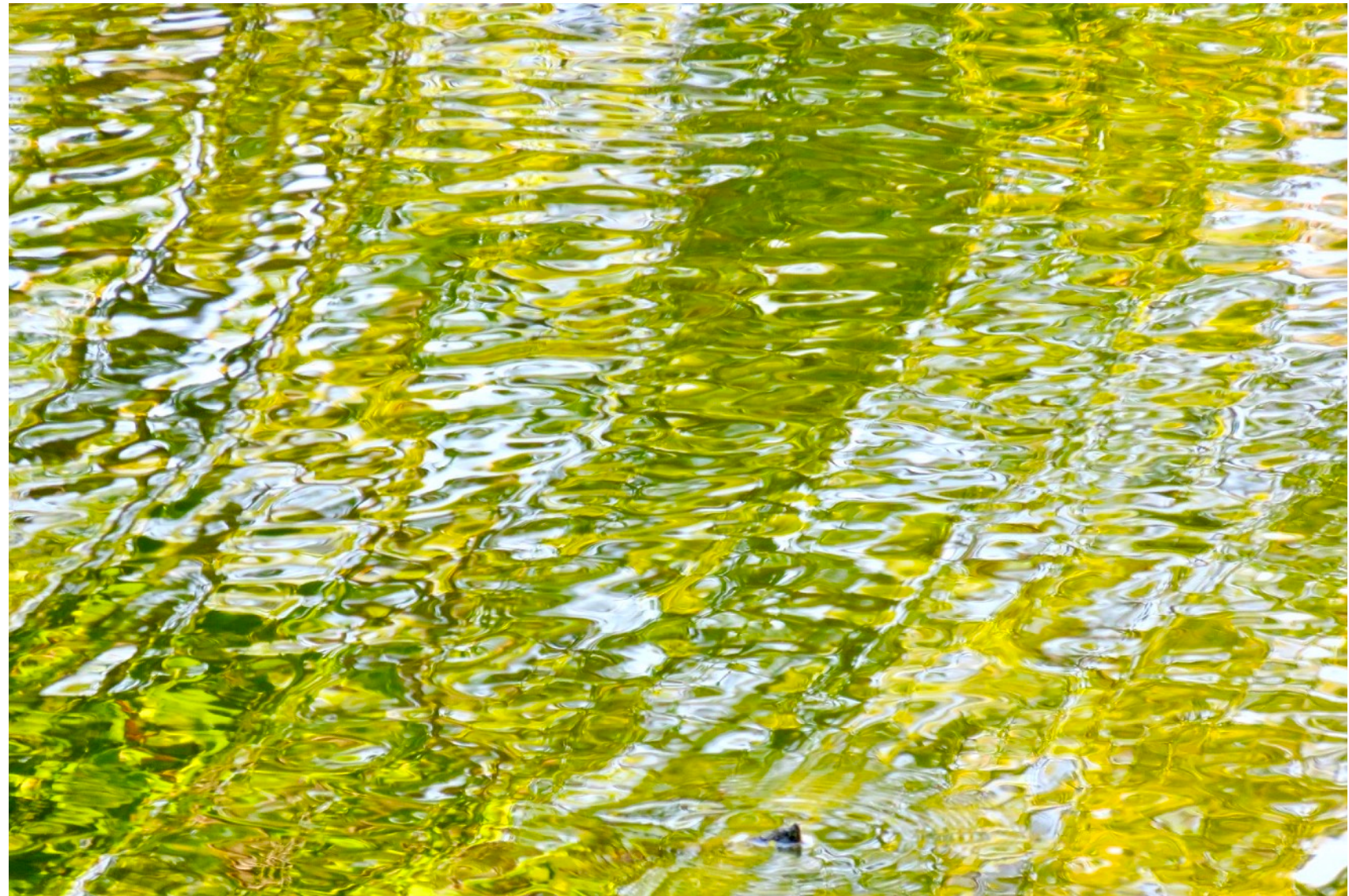
水の面は
ときに
風を受け
千々に乱れもする

わたしは
あなたに映る
じぶんの姿を
じぶんだとは思わずに
生きているけれど

あなたという鏡は
ときに
わたしの言葉で
激しく歪んだりもする

どんなに乱れ
歪んだとしても
それはわたしを映しているけれど

風なき湖面のような鏡に
じぶんを映せますように



＊愛媛県総合運動公園にて

水の神話は
創造の起原を語る

原初の海は
言葉をつくる
音の波の集まり
つまり弦

弦がふるえ
音の波が重なり響きあい
そこから光が生まれた

言葉は光る音
そして音と光は律動し
歌いはじめる

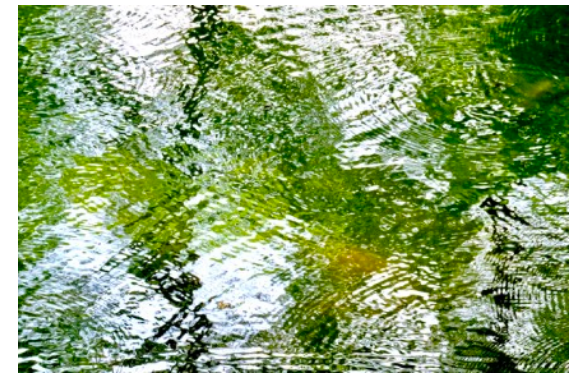
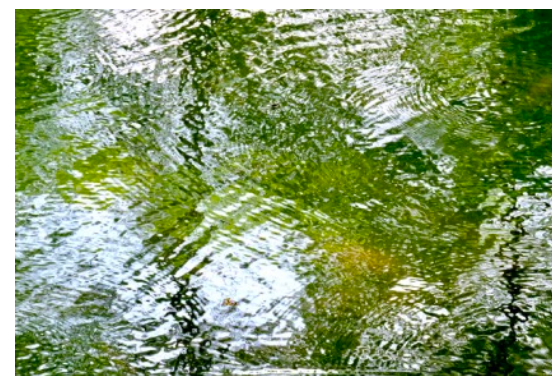
すべてのものは
歌でできているから

たとえ歌が
忘れられてしまう
そんなときがきても

魔法の言葉さえあれば
世界はまた歌いはじめる

詩人は
その魔法の言葉を
見つけださねばならない

石たちのなかに
植物たちのなかに
動物たちのなかに
見失われている秘密の言葉を



*愛媛県総合運動公園にて

光にふれるひとは
光を紡ぐ

光にふれようとしないひとに
その世界は紡げない
光で紡がれた世界を
想像することさえできないままに

虫を見るひとには
虫の世界がひらかれる

虫を見ないひとに
その世界はみえない
虫が見る世界を
想像することさえできないままに

作るひとは
ポイエーシスを生きる

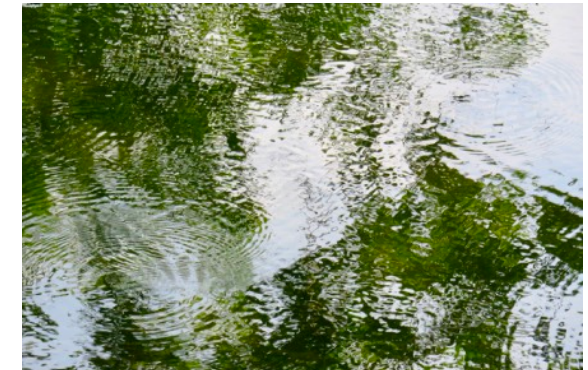
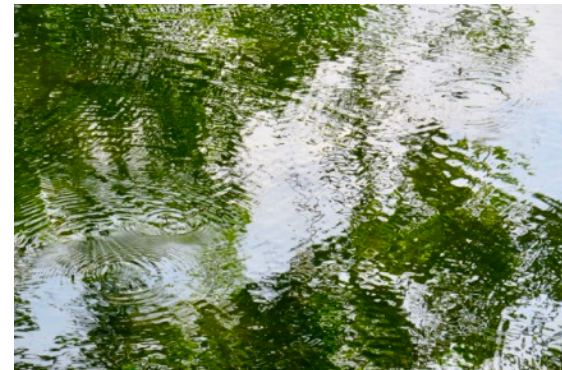
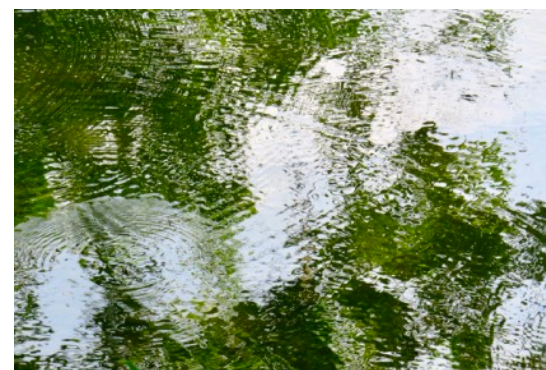
作らないひとに
その世界は存在しない
作ることによって開示される世界を
想像することさえできないままに

愛するひとは
愛を生きる

愛さないひとに
その世界を生きることはできない
愛するなかにしかない世界を
想像することさえできないままに

いまここを生きるひとは
永遠を生きる

いまここを生きられないひとに
その世界は存在しない
永遠を
想像することさえできないままに



＊愛媛県総合運動公園にて

わかっている
と思いたい
思われたい

わからないとは
思えない
思いたくない

そんなところからは
わかることは
はじまらない

わからない
というところ

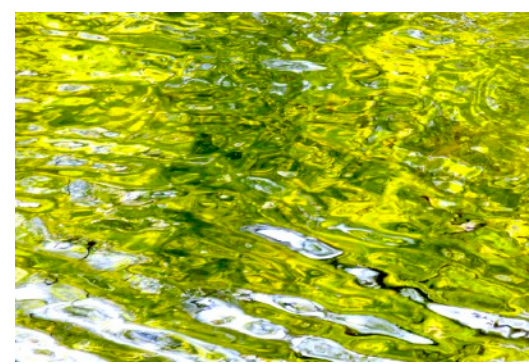
わかろう
とするとところから

わかることは
はじまる

わかることを
はじめるために

未知の曠野へ
赴く者は
幸いである

その孤独の種からこそ
稔りはもたらされるから



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

教えられたことは
じぶんの考えではないから

その考えが
どこからきているのか考える

じぶんの考えといえる
考えが生まれるように

与えられた言葉は
じぶんの言葉ではないから

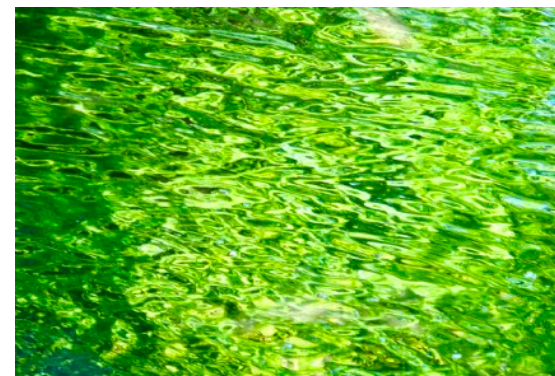
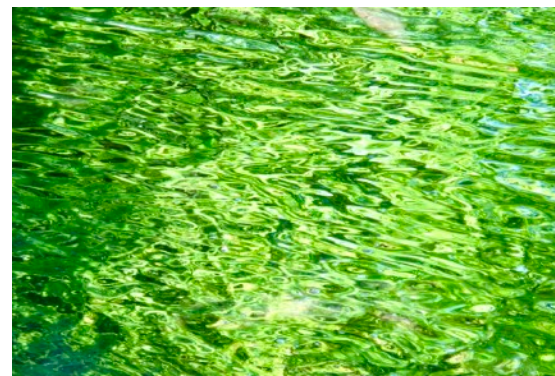
その言葉が
どこからきているのかたしかめる

じぶんの言葉といえる
言葉が生まれるように

本から得た知識は
じぶんで得た知識ではないから

そこに書かれてあることが
どこからきているのかたしかめる

じぶんの知識といえる
知識が生まれるように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

はじめに
ことばがあるならば

ことばに囚われ
縛られてしまうことにならないか

はじめにあったのは
与えられたことばのない
世界ではないか

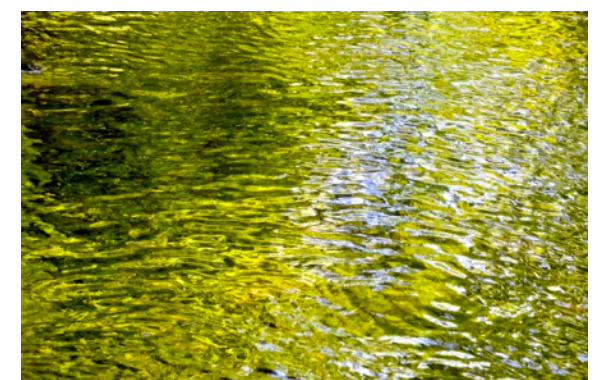
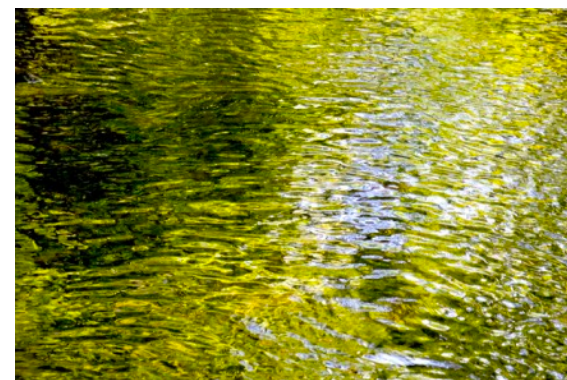
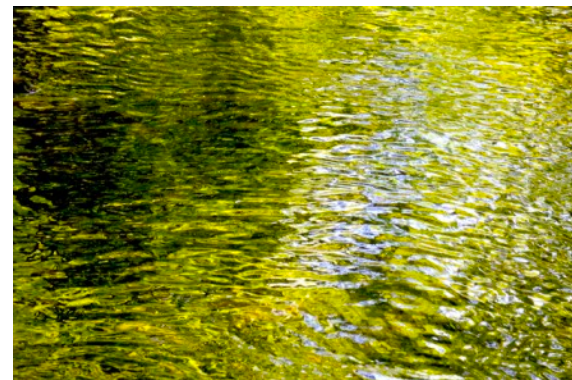
そこから
おのずとことばは生まれ
ともに変わっていく

はじめに
こころがあるならば

こころに囚われ
縛られてしまうことにならないか

はじめにあったのは
与えられたこころのない
世界ではないか

そこから
おのずとこころは生まれ
ともに変わっていく



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

天使は
高みから見ている

高みから
語りかけようとしても
その言葉は
ひとにはとどかない

ひとは
地上から高みを見ている

高みへと
語りかけようとしても
その言葉は
天使にはとどかない

ひとには
天使の言葉がわからず
天使には
ひとの言葉がわからないから

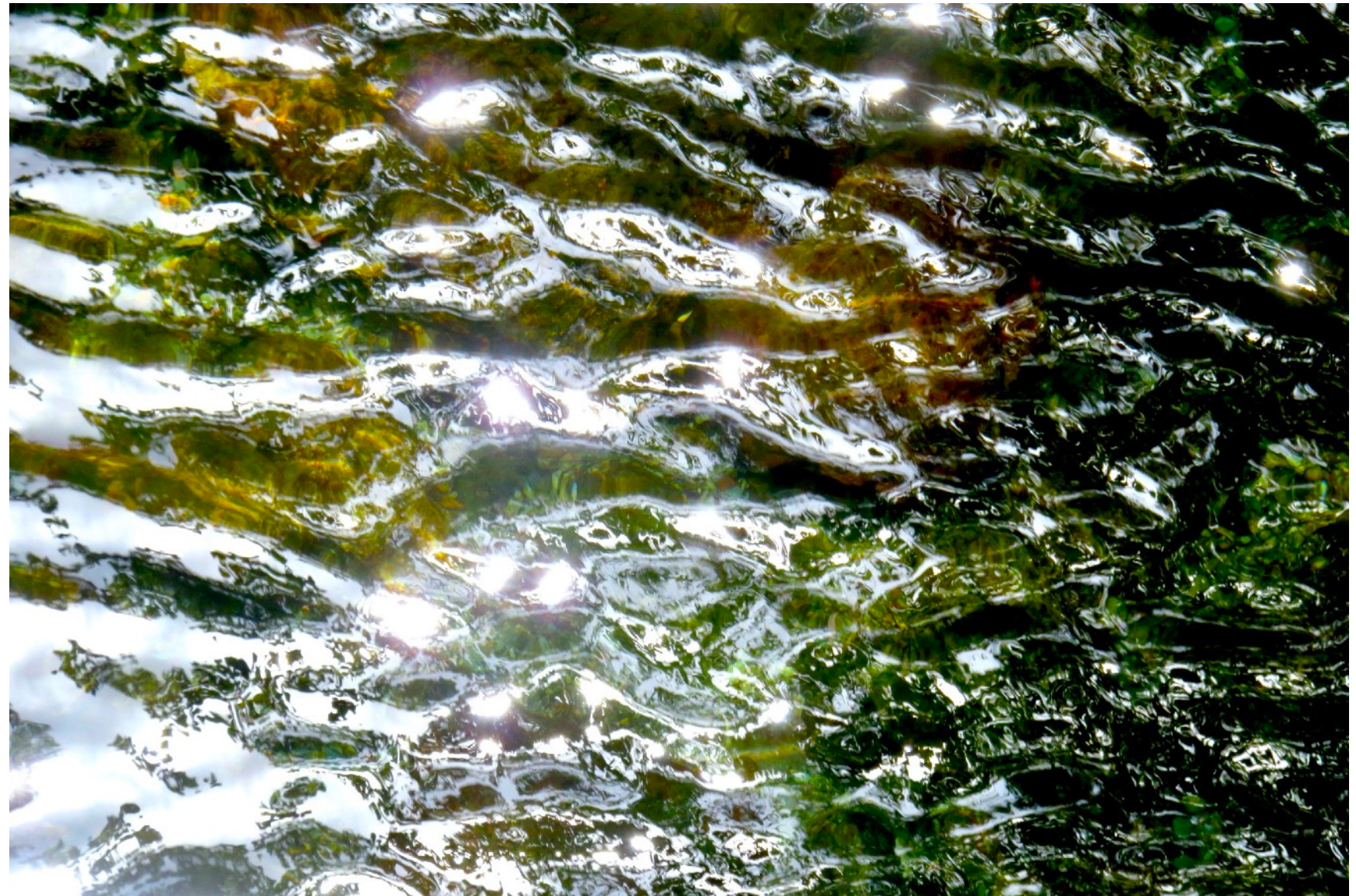
たがいの言葉を聴きとるためには
天使は
ひとになるために
からだを得て地に降り
ひとは
天使になるために
霊とともに天へ昇らねばならない

上なるものは
下なるものへ
下なるものは
上なるものへ

そこにこそ
錬金術的秘儀がある

高みは高みのままではいられない
低きは低きままではいられない

それは天使にとっては
生の秘儀となり
ひとにとっては
死の秘儀となる



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-3575 2024.6.22

私を
ぐると
裏返し

内なるものを
外なるものに
外なるものを
内なるものに

私はいったいどこにいる

世界を
ぐると
裏返し

夢を
現に
現を
夢に

世界はいったいどこにある

時間を
ぐると
裏返し

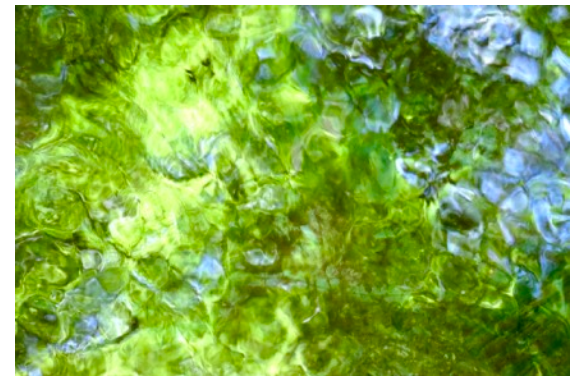
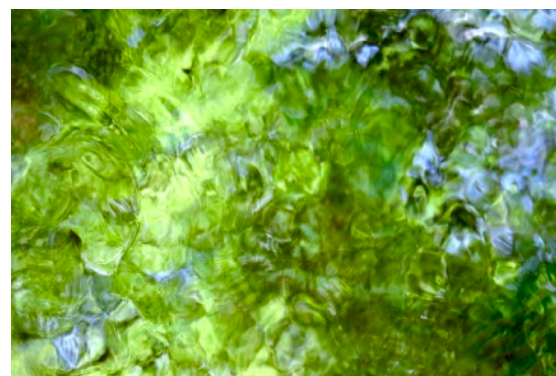
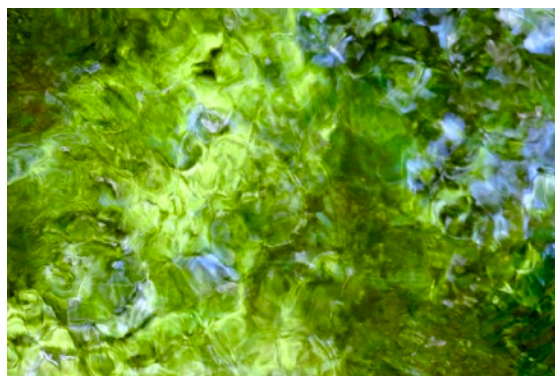
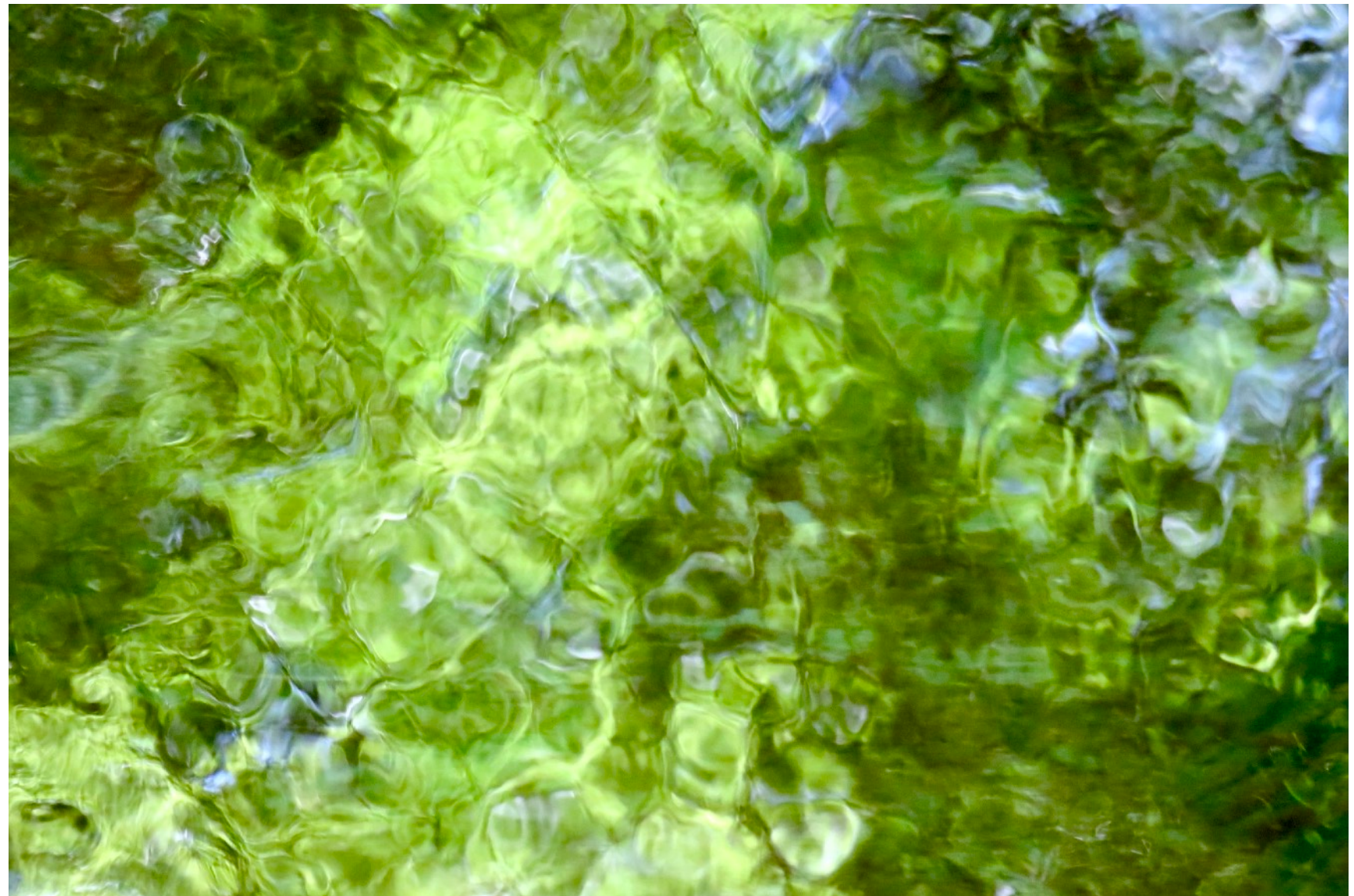
過去を
未来に
未来を
過去に

時間はいったいどこにある

存在を
ぐると
裏返し

有を
無に
無を
有に

存在とはいったいなんだろう



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて